（別添３）

【愛知県小牧市】

校務DX計画

小牧市は校務支援システムを早期導入するとともに、自宅から学校の職員室の校務用端末を安全に遠隔操作できるシステムを導入し、教員の働き方改革を推進してきました。

１人１台端末導入後は、授業支援ソフトウェアや学習eポータル等を活用し、児童生徒への各種連絡のデジタル化を進めてきました。

また、令和３年度には、保護者連絡アプリを導入し、教員と保護者間の連絡（保護者から出欠連絡、学校からの配布文書等）をデジタル化しました。

教員間においては、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項、各種資料及び教材をオンラインで共有しています。さらに、校内研修をオンラインで実施し、教員がいつでも研修内容をふりかえられるようにアーカイブ視聴の環境を整備しています。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多くみられるのも事実です。そのため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定めます。

１．　ゼロトラスト環境の構築

（１）校務系及び学習系ネットワークの統合

小牧市では、令和３年度に教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、ホームページの編集・メールの送信など、インターネットに接続して業務を行う「校務外部系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の３つに分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としました。

令和５年度には、ネットワーク分離ソフトを導入し、１台の教職員用端末で２つのネットワーク（校務系及び校務外部接続系）を切り替えて利用するネットワーク分離環境を構築しました。

教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

（２）校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型（市役所センターサーバ上）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しています。

保護者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化

について、全国の先進自治体の動向を調査します。そして、校務支援システムの次期更新時（令和９年８月末）のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計、調達事務等を進めます。

（３）教育ダッシュボードの創出

授業支援ソフトウェアやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データなど、膨大な教育データを収集・分析・可視化するインターフェース（教育ダッシュボード）を構築し、そこから得られる情報を効果的に活用して、業務及び授業の改善につなげることが期待されています。

教育ダッシュボードの研究・開発については、校務支援システム及び学習eポータル等の事業者が進めているところであり、（１）（２）の取組みとあわせて、費用対効果を鑑み、小牧市にとって最適な教育ダッシュボードの活用方法について調査研究します。

２． FAX及び押印の見直し

小牧市では、校務支援システム内のグループウェア機能により、学校-学校間、市教育委員会-学校間の文書連絡・資料送付に活用しています。また、教職員１人１人に業務用のメールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用しています。

一方で、令和５年12月に文部科学省より発出された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。

そのため、小牧市においては、令和６年１月に市教育委員会から市役所関係部署に紙ベースの資料配布の見直しを依頼したところですが、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者においては、紙ベースやFAXでの資料配布・提出を学校に求めるケースが見受けられます。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

あわせて、各学校に対して、外部へ児童生徒の個人情報など機微な情報を送信する際の注意事項等について周知啓発します。

３． ペーパーレスの推進

これまで、小牧市では、校内の職員会議等において、校務サーバ等に保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムのグループウェア機能でマニュアル等を学校間で共有したりしてきました。

児童生徒１人１台端末導入後は、保護者連絡アプリによる教員と保護者間の連絡のデジタル化、児童生徒への各種連絡のデジタル化、職員間の情報共有のデジタル化や研修資料のアーカイブ化により、ペーパーレス化を推進してきました。

今後は、学校間をまたぐ会議等においても、授業用端末及びMicrosoft365をはじめとするクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化を一層推進するとともに、電子決裁システムの導入について研究します。

４．　校務におけるＲＰＡ・生成ＡＩ等の活用

リーディングDXスクールの生成AIパイロット校の取組を参考とし、Microsoft365のPower Automateなどによる定常業務の自動化、生成AIを活用した校務の効率化を推進します。

生成AIの利活用に際しては、安全性を考慮した適性利用、情報セキュリティの確保、個人情報・プライバシー・著作権の保護等の注意事項について周知啓発します。

５．　その他

デジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっています。デジタル採点システムを導入している先進自治体の取組を参考とし、ICTを活用した採点業務の効率化について調査研究します。